

2 明治8年10月14日 菊池長閑

第一号

一 別已来絶書通不致居者如才ニ無之着京無程出帆有無之報知可有之其頭ニ至可取計と存居候処七月二日無事着京之電報翌三日午後七時頃達し同十日附書状十六日ニ達候得共十八日出帆之趣ニ候得者最早郵便も及不申彼是乍思見合居候併七月一日工藤左一郎出立十二日振にて着京之見込必出帆前ニ着と考家族之写真頼遣候処雨天統之為メ十九日振にて着之趣ニ候得は是も相後れ甚残念ニ候右之次第にて安否も不問打過居候不悪察與候様存候七月十八日出帆之義は十日附ニも報知有之一条よりも十八日附

ニて喜代治横浜迄見送洋銀手配等之事委敷申来已来不馴之海路  
船中如何凌候哉且夕噂ニ而已打過居候処八月七日附書翰九月十  
七日午後五時達<sup>四十二日也</sup>不取敢開封家内打寄披見候処見積<sup>ハ</sup>一  
日延十九日振ニて八月五日桑港へ無難着之趣何寄先々大安心喜  
悦無此上候抑洋行之事承より一ハ歎一ハ心痛候処本宿父子を始  
一條<sup>ハ</sup>も祝詞之上種々吾心を慰る事皆同一乍去是迄ハ東京すら  
手遠ニ存候処況や世界表裏之掛隔暫時も可安暇無之処此度之記<sup>ハ</sup>  
行を閲するに横浜迄文部大舗或ハ校長等見送り送別之馳走等御  
規則ニは可有之候得共年来勉強之切なかりせは争か斯る仕合に  
預んや千金を費共容易ニ不及事貴様之面目ハ不及申吾々家内親  
属までに及事と難有感涙を促候初て昔日之心痛を散し寐の覚た  
る心地ニて満悦不可過已来奮起唯今ニて首尾能卒業半年なれ共  
早く帰朝候様旦夕ニ折居候横浜釜釜已来船中之模様朝夕之様子  
真ニ見る如く聞か如く就中二首吟詩亦察ニ堪候廿八日九日之逆  
風恐怖身毛も立の心地然ニ終に舟氣之感するなきハ実ニ存外驚  
入候舟中之冷氣氣候之變なるものや更に航海之様子不案内な  
れハ不分候桑港之浴価等可驚日本之物価貴騰と云ふも恥入たる  
事と笑居候

第二号八月廿一日附十月六日午後一時達<sup>四十七日也</sup>弥八月七日桑

港出車十七日ホストン府セントル街六番地ニ無事投宿之趣是又  
安心致候此度ハ洋中と違見物も有之旅之勞も慰候半記行を閲す  
るハ大ニ楽<sup>ミ</sup>候間何分早達候様致度候最早入校致候哉今朝も新  
聞を見れ<sup>ハ</sup>洋行<sup>抹消</sup>留学生<sup>ハ</sup>之文通と見得始ハ方角も不<sup>ハ</sup>分人之尻  
ニ付進退すると丁度田舎者東京ニ初て出る様ならん頓と貴様に

も同様ニ可有之然し同行之族同校エ入学ニ候ハ一向不知他人  
之中へ吾人宛よりハ万事都合も少しハ可宜と被考候猶折返次第  
奇事珍話取調為知候様頼入候一條も此度秋田在勤被仰付由ニて  
去ル十二日着いたし委敷承り候処貴様支度入費之殘金も存外有  
之洋銀ニ換候由一條之心付之通何様之義出来入用も難計候間用  
金は必覚悟可有之候<sup>秋田在勤ハ先以二ヶ年之よし東京宅ハ人ニ貸置は出  
仕舞候趣弟喜代治も秋田鉱山エ当節参居候よし△△出</sup>  
立之砌頼候羽織并八角時計扇二本共無事鍵屋<sup>ハ</sup>届呉候於くの  
用之櫛笄も一條<sup>ハ</sup>下し呉候実ハ四五円之物ニて足候事と存候処  
格別結構之品ニて当人ハ申までも無之吾々迄大慶ニ候御影ニて  
為用可申人中エ差出候ても不恥事と不浅存候右御礼おくの<sup>ハ</sup>も  
厚申候古物は迎も下夕物にてハ二束三文ニ付当時風之形ニ詰メ  
直呉是又存外儲物ニ成大喜之事ニ候同人未た相応之相談も無之  
候方々エ世話頼申候およし縁組届去月廿二日ニ差出当日結納  
婆ニテ着取遣し候

可致候

六月出立後於当地異事無之七月二日<sup>ハ</sup>雨天勝にて降り続十一日  
大雨翌朝大水にて県下ハ上ノ橋下ノ橋明治橋夕顔瀬赤川ノ橋落  
其外下小路裏飯橋米内橋築川葛西橋も落候大沢川原も表裏小路  
古河より水溢流候事世人も不覚と之事昨年<sup>ハ</sup>ハ三尺余之出水と  
申事ニ候五六日間滞留ニて別れ候ハ甚残念候へ共千万無理ニ  
差止右之雨天統ては大不都合之事と今更思当り候能節出立ニて  
見込<sup>ハ</sup>ハ一日早く着京ニ候右之出水之為メ水損不少持地も飯岡

村々ニハ少々有之向中野ニハ其訴無之乍去右雨天已来更ニ暑無  
之土用中ニ拾襦半を用事有之人皆凶年と内心ニ取究米も三円五  
十銭位之処一時ニ老円位上り人氣不穩処八月十二日頃ハ逐日暑  
氣既ニ九十度已上之至八月中右之氣候ニて田畑共引直処ニ寄去  
年ハ出来作之処も有之由なれ共二十日ニ至ても早稲と雖も  
極稀ニ出植故右之残暑之直り作ニ候得は概去年ハ劣ニ可有之  
候當時ハ米価四円位ニ御座候新米時も格別下落ハ致間敷と之噂  
ニ候

朝鮮事件未だ委敷事ハ見聞不致一条之咄なれば雲陽艦朝鮮地方  
へ測量之砲彼ハ砲発致され不得止是ハも発砲其屋場を敗り民家  
を放火したる由事情ハ井上大佐罷歸可申上と電報有之よし如何  
成行欵黑白測知るヘカス<sup>(ママ)</sup>

御祖母様当年も暫く御湯治来ル十七日二廻リニ相成候御帰之積  
当年も御相応ニて大慶致居候其外家内親屬も皆無事当地は最早  
薄霜降追日秋仕舞之節ニ当り候其地ハ如何なるものや

必毎月通信致候様可申遣旨御祖母様被仰付候間怠申間敷候従是  
も同様書通可致候

此度一条ハ承候得は桑港迄之<sup>(ママ)</sup>記行那珂氏ニて曙新聞エ差出候趣  
ニ候洋行事各名へ年も記日々新聞へ出また今度曙新聞エ記行も  
出候得は先国内ニ弘まり大慶之事ニ候

当時当県ニ角力芝居有之大当リニ候其外別たる事も無之候先般  
々之返事旁安否承度如此ニ候折角無油断勉強可致候以上

十月十四日

長閑

武夫殿

猶以肩書認方不問候ハハ差図可致候

八月七日書翰達たるハ九月十七日ニて立待之夕なれば例之

口癖ニ任せて

たちまちにこころにかくる雲きえて

月にさしくむみつくきのあと

(注記)

「△然し十二月ハ登り可申と之事ニ候一条ニ頼置候書類は原

折之まゝ封印喜代治へ預置候よし」

(封筒表)

「米国ポストン府セントル街

六番地ポストンハイランド止宿

菊池 武夫 殿

要用書報平安

(封筒裏)

「日本陸中国岩手県下

第一大区五小区加賀野村

八十六番地

菊池 長閑